

別紙2 平成 28 年度 自己評価書 作成日: 1月 23日 国分寺市立 第二中 学校 校長名 重松 靖

教育目標 : ○みずから学び 創造する	○心豊かに 互いを尊重する	○健康で たくましく生きる
めざす学校像 : ○確かな学力を育む学校	○豊かな心を育む学校	○地域に開かれ、地域が誇れる学校
めざす生徒像 : ○瞳輝く生徒	○深く考える生徒	○希望に満ちた未来を創る生徒
めざす教師像 : ○教育に対する熱意と使命感に富む教師	○一人一人の良さや可能性を引き出せる教師	○研修意欲に富みお互いに高め合う教師

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標	努力指標	成果指標	成果指標	分析コメント	改善策
				(中間)	(最終)	(中間)	(最終)		
学力の向上	学ぶ楽しさ、わかる喜びが実感できる授業を工夫し、確かな学力の向上を図る	小学校の教員と密接に連携するとともに、ICT機器の活用を積極的に進め、「わかる授業」、「楽しい授業」を実践する	「わかる授業」「楽しい授業」を実践するために、教員が積極的にICT機器を活用する	/	3	/	4	教員の72.8%が実施していると回答した。生徒の84.9%が「授業は楽しくわかりやすい」と回答した。教員のICTの活用の普及には課題はあるが、「わかる授業」「楽しい授業」の実践が生徒の学びに繋がっていることがわかる。	教員は、「楽しくわかりやすい授業」を実践しようと高い意識で授業に取り組み、その成果として生徒の「楽しくわかりやすい」という実感に繋がっている。ICT機器の活用をさらに積極的に行うためには、施設面の充実や操作技能の習得などの課題もあるが、その中でも活用頻度を高め、現状で効果のある授業実践を行う。
			各教科で、学習のねらいを明確にし、本時の目標を示して授業を展開するとともに、授業の振り返りを必ずさせる	4	3	3	3	教員の100%/86.4%が実施していると回答した。生徒の78.0%/74.5%が、授業ではめあてを意識して学習に取り組んだと回答した。教員がねらいを示し、振り返りをさせる意識が薄くなっていることが、生徒への浸透に繋がっていない原因の一つである。	生徒がわかる喜びを実感できる授業にするためには、学習のねらいや目標を明確に示すと共に、意図的・計画的に授業の振り返りをさせるということが大切である。教員のさらなる意識の向上を図りたい。また、授業改善推進プランに基づいた意識的な努力や工夫を昨年に引き続き定期的に継続させる。
豊かな人間性を育む	多くの人とふれあいながら、自己肯定感を高め、他を思いやる心や感動する心などを育み、夢と希望をもって生きる生徒を育てる	学級活動を充実させるとともに、特別支援学級や異学年との交流などを通して、思いやりの心を育み、いじめのない学校にする	「第二中学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめを早期に発見し、迅速に指導する	4 [3]	4 [4]	3 [4]	3 [4]	教員の100%/100%[85.7%/91.3%]が「第二中学校いじめ防止基本方針」に基づき、迅速に指導していると回答し、生徒の89.9%/85.8%[94.6%/86.4%]が二中にいじめがないと実感している。高い水準は維持しているが、若干減少傾向である。	生徒の実感が教員の取り組みに対して低い状態である。生徒のいじめに対する意識が高まっていることが原因と考えられるが、教員一人一人がさらに人権感覚を養い、生徒がより安心して学校生活を送ることができるよう生徒会活動の活性化や日常からの見守り等の指導を積極的に進める。
			様々な行事に主体的に取り組み、達成感を味わい、自己肯定感や自尊感情を高める	運動会や合唱コンクール等の学校行事や委員会・係活動に主体的・積極的に取り組めるよう指導する	/	4 [4]	/	3 [4]	教員の100%[97.5%]が生徒に充実感を味わえるよう指導を工夫したと回答し、生徒の89.3%[91.2%]が「行事や生徒会活動・部活動を行うことに充実感を感じた」と回答した。教員の意識の高さが、生徒の実感の高さに繋がったものと考ええる。
信頼される学校	特色ある教育活動を推進し、地域や小学校から信頼される学校を創造する	学区域内小学校との交流を推進するとともに、地域とも連携し、安全で安心できる地域づくりに貢献する	地域との交流活動や、学区域内の小学校との間接的・直接的な交流を積極的に行う	/	4 [4]	/	3 [3]	教員は15回[11回]地域や学区域内小学校との連携を行った。生徒は51.3%[49.1%](59.0%)が、保護者は82.31%[79.6%](76.8%)が連携を実感していると回答した。保護者の指標と比べ生徒の実感が落ち込んでいることが問題である。	地域との交流は行っているが、小学校との児童・生徒間交流が目に見える形になっていないことが課題である。今年度は、1年生やF組が小学生への読み聞かせ等も行ったが、生徒の実感に繋がっていない。今後もイベント的、日常的交流を増やし、PRにも力を入れていくことで連携が目に見えるものとなるよう努力する。
			学校の情報を積極的に発信し、学校に対する理解を深める	ブログ、ホームページを充実させるとともに、教育活動の成果を学区域内小学校へ積極的に発信する	/	4 [4]	/	4 [4]	毎月発行の二中だよりだけでなくブログで教育活動の紹介を行ってきた。保護者の92.6%[92.9%]が「二中の活動がわかりやすく伝えられている」と回答した。ブログの積極的な発信や各種たよりによる広報活動が成果を上げているものとする。

[]内の数値は前年度前期 回収率 : 保護者 88.8 % 生徒・教員100%
 ()内の数値は前々年度前期 下線なしが前期 ・ 下線付きが後期